

# サイクルガイドツアーの実態と参加意思に関する分析

松下 裕貴<sup>1</sup>・山中 英生<sup>2</sup>・森田 椋也<sup>3</sup>

<sup>1</sup>学生会員 徳島大学大学院 創成科学研究科 理工学専攻 (〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1)

E-mail: hiroki.m0709@icloud.com

<sup>2</sup>正会員 徳島大学大学院教授 社会産業理工学研究部 (〒770-8506 徳島市南常三島町 2-1)

E-mail: yamanaka.hideo@tokushima-u.ac.jp

<sup>2</sup>非会員 徳島大学 人と地域共創センター 講師 (〒770-8502 徳島市南常三島町 1-1)

E-mail: ryo.morita@tokushima-u.ac.jp

国の自転車活用の推進に関して基本となる計画である自転車活用推進計画が 2019 年に策定され、計画においては 4 つの柱となる目標の 1 つにサイクルツーリズムによる観光産業の促進を掲げている。地域の活性化を目指すなか、観光産業における滞在コンテンツの充実を図る方向の一つとして、自転車による観光、自転車を活用した観光地域づくり：サイクルツーリズムへ着目が集まるようになってきている。本研究は、多様なサイクルガイドツアーの実態と課題、さらには利用者の参加意向を明らかにすることを目的としている。このためサイクルガイドツアーに加えてウォーキング等のアクティビティのガイドツアーに着目し、全国各地で行われているガイドツアーの運営者・関係者のヒアリングするとともに、募集 WEB サイトの情報収集と分析からその実態と課題、ツアーの類型を整理したうえで、WEB 調査を用いて参加意思、支払意思額を分析した。

**Key Words:** *bicycle tourism, adventure tourism, guides tours, conductors, WEB survey*

## 1. はじめに

国の自転車活用の推進に関して基本となる計画である自転車活用推進計画が 2019 年に策定され、計画において 4 つの柱となる目標の 1 つにサイクルツーリズムによる観光産業の促進を掲げている。地域の活性化を目指すなかで、観光産業における滞在コンテンツの充実を図る方向の一つとして、自転車による観光、自転車を活用した観光地域づくり：サイクルツーリズムへ着目が集まるようになってきている。

自転車は環境にやさしいモビリティであるとともに、健康と余暇の充実をもたらす交通手段として着目されており、さらには新型コロナウイルス感染症拡大の中で、人との接触が少なく、健康的手段として利用の高まりも見られる。一方で、自然・文化といった我が国の豊富な地域資源を観光コンテンツとして活用するアドベンチャーツーリズムの一形態としても、サイクルツーリズムは海外旅行者の需要が見込めるとの関心をもたらしているため、全国各地でサイクルルート指定・整備やサイクルガイドツアーなど、自転車による観光・サイクルツ

ーリズム促進にむけた取り組みが進められている。

自転車観光は、自動車に比べて、移動中の景色を身近に楽しむことができ、自転車で巡っている途中で店やスポットに気軽に立ち寄ることができる。また、人と同じ目線でその地域を見ることができ、サイクリストとその土地の人々との交流が生まれやすいとされている。こうした利点を最も生かすことができるのが、その土地のことをよく知り、その土地の人ともつながりのあるガイドがツアーを引率するサイクルガイドツアーで、サイクルツーリズムをソフト面から推進していくうえで、サイクルガイドツアーの取り組みを広めることが重要な戦略と考えられており、各地の自転車活用推進計画でもガイド育成の支援策などが試みられている。

本研究では、以上の背景を踏まえて、サイクルガイドツアーの実態と課題、さらには利用者の参加意向を明らかにすることを目的としている。このためサイクルガイドツアーに加えてウォーキング等のアクティビティのガイドツアーに着目し、全国各地で行われているガイドツアーの運営者・関係者にヒアリングするとともに、WEB サイトのガイドツアー募集情報を収集しその実態

と課題を分析し、ガイドツアーの類型を把握した。さらにサイクリング関心層とその他の一般層を対象に WEB アンケート調査を用いて、ツアー類型への参加意思と支払意思額を分析した。

## 2. 研究方法

### (1) サイクルガイドツアー関係者へのヒアリング調査

本研究では、サイクルガイドツアーを実施・企画する上での課題や実情を把握するため、ガイドツアーの実施者・企画者にヒアリングを実施した。調査では、各主体が実施するサイクルガイドツアーのプランに関する内容に加え、各主体の HP からは得ることが困難な地元自治体や地元の観光業者など他組織との連携に関すること、今後サイクルガイドツアーを推進していく上での課題について聞き取りした。2021 年 1 月 22 日に開催された 2021 年第 3 回自転車利用環境向上会議オンラインに出席していた (株) アーチヒーロー高橋氏をはじめとして、全国で展開するサイクルツーリズムに関わる表-1 に示す 10 社 11 名にヒアリングした。

### (2) WEB サイトによるガイドツアーの実態調査

WEB サイト上でサイクルガイドツアー、アドベンチャーツアーの募集情報を検索し、表-2 に示す分類で、参加料、催行人数、ツアー時間などの実態を分析した。アドベンチャーツアーの中のサイクルガイドツアーとウォーキング、リバーアクティビティなどのアドベンチャーツアーを対象とした。具体的にはインターネットで「アクティビティ ガイドツアー」と検索し、ヒットした上位 80 件の中で、国内のアドベンチャーツアーをしている会社の HP、また旅行代理店の検索サイトからサイクルガイドツアー、アドベンチャーツアーを抽出した。

### (3) WEB アンケートによるツアー類型への参加意思調査

ツアー類型の違いや対象層の違いなどによる参加意思、支払意思額の違いを把握することを目的として、調査会社 FASTASK 社に依頼して実施した。スクリーニング調査で徳島県内・県外在住、サイクリングの関心層と一般層の対象者を抽出した。具体的には、自転車利用可能か、過去に購入した自転車の最高額、サイクリング活動への参加経験を県内、県外各々 2200 名に質問した。このうち、表-3 のサイクリング経験が一つでもある者を関心層として、その他を一般層と選別した。関心層は県外 2200 名中 771 名、県内では 599 名で、県外で 35%、県内で 27%であった。本調査では、県内外の関心・一般層の 4 つの対象群に分け、各対象でそれぞれ 176 のサンプルを得た。

調査では、先述の WEB 調査の結果をもとに作成したサイクルガイドツアーとアドベンチャーツアーの 14 種のツアー案 (表-4) への参加意思、参加したいツアーにくらまで払えるかという支払意思額を質問した。

表-1 ヒアリング対象

聴取者	所在	調査対象社・団体
1	北海道	(株) アーチヒーロー北海道
2	徳島	(株) AWA-RE
3	鳥取	鳥取県商工会連合会商工会産業支援センター
4	福井	一般社団法人若狭ベイプライム
5	滋賀	輪の国びわ湖推進協議会
6	滋賀	NPO法人五環生活
7	滋賀	びわ湖のカナタ
8	熊本	道の駅阿蘇 サイクルツーリズム学校コギダス
9	熊本	道の駅阿蘇 サイクルツーリズム学校コギダス
10	熊本	あそたんガイドツアーズ
11	熊本	阿蘇くじゅうサイクルツアー

表-2 WEB サイト調査のツアー分類及び情報収集項目

サイクリング・他	ツアー分類	収集項目
サイクルガイドツアー	サイクリング低	ツアー実施の最小人数
	サイクリング中	ツアー実施の最大人数
	サイクリング高	ツアー実施時期
	サイクリング、体験	ツアー実施時間
アドベンチャーツアー	体験	料金
	リバーアクティビティ	実施場所の特性
	マリナクティビティ	同行するガイドの有無
	スノーアクティビティ	ツアー中の食事の有無
	ウォーキング、散策	加入する保険の有無
	ウォーキング	ツアー分類
	トレッキング	
ウォーキング、体験		

表-3 関心層のスクリーニング項目

関心層：自転車観光・ロングライドの経験項目
・観光地で自転車を利用して観光したことがある
・自転車ガイドツアーに参加したことがある
・1日に50km以上サイクリングしたことがある
・ロングライドイベント (約100km) に参加したことがある
・自転車で長い距離を宿泊しながら旅をしたことがある

## 3. サイクルガイドツアー関係者へのヒアリング調査結果

### (1) サイクルツーリズムの取り組みについて

ヒアリング対象者の多くはサイクルガイドツアーのガイド、企画者のため、サイクルガイドツアーを中心に実施されていたが、一部では、トレッキングや散策などのアクティビティのツアーを展開していた。また、レンタサイクル事業やガイド育成講座、サイクリングマップ作成などサイクルツーリズムを推進する取り組みも進んでいる関係者も存在した。

### (2) 他組織との連携について

全関係者から地元自治体と何らかのつながり、連携があるという回答が得られた。サイクルツーリズムの推進には地元自治体とのつながりが不可欠であることが考えられ、PR、ハード面の自転車環境の整備、補助金など自治体の協力が重要であるということが考えられる。

表-4 作成したツアー類型の内容

ツアー類型略称	分類	ツアー内容（質問説明文）
①シティポタリング 3h_¥5000	サイクリング 低	街中を電動のシティサイクル（ママチャリ）で走行し、市街地の有名な施設や名所を巡る3時間のツアー
②クロスツーリング 6h_¥10000	サイクリング 中高	整備された自転車道をクロスバイクで走行し、昼食を挟みながら施設にはあまり寄らずに自転車での走行を楽しむ一日（5～6時間）のツアー
③オフロードツーリング 3h_¥15000	サイクリング 中高	山の中のオフロード（舗装されていない道）をアシスト付きマウンテンバイクで走行し、山の中での自転車走行を楽しむ3時間のツアー
④ダウンヒル 3h_¥5000	サイクリング 中高	山の中腹からスタートし、山の麓までクロスバイクでかけ下りてくる3時間のツアー
⑤グルメサイクル 6h_¥15000	サイクリング 低	自転車で移動しながら、地域の有名な料理を楽しみ、そこでしかできない楽しい体験ができる一日のツアー
⑥サイクル&リバー 6h_¥15000	サイクリング 体験	午前中、川や川沿いの自然豊かな道をマウンテンバイクでサイクリングし、美味しい昼食を楽しみ、午後からはカヤックやカヌーなどのリバーアクティビティ体験をする一日（5～6時間）のツアー
⑦ロードバイクツアー 6h_¥10000	サイクリング 中高	地元のガイドの選りすぐりの、アップダウンがあり距離が60-80kmほどの、上級者向けのルートをロードバイクで走行する一日（5～6時間）のツアー
⑧2日サイクリング 12h_¥40000	サイクリング 体験	初日は市街地や郊外の種やかな道を電動付き自転車（種類は選択可能）で走行し、2日目は地域の体験やアクティビティをする食事と宿泊付きの1泊2日のツアー
⑨ポタリングツアー 6h_¥15000	サイクリング 低	高級な折りたたみ自転車で自転車走行を楽しみ、時には自転車を折りたたんで列車やバス、船によって移動をして、観光地や食事を楽しむ一日（5～6時間）のツアー
⑩マウンテン草原 6h_¥15000	サイクリング 低	山の草原をアシスト付きマウンテンバイクで走る3時間のツアー
⑪ネイチャー ウォーク 3h_¥10000	散策 マリン・リ バーアク ティビティ	山の中や湖、川沿いの自然豊かな道を歩いて散策する3時間のツアー
⑫グルメウォーク 3h_¥5000	散策 マリン・リ バーアク ティビティ	有名な市街地の街並みを歩いて回り、途中ご当地の食べ物を楽しむ3時間のツアー
⑬ウォーク&リ バー 6h_¥15000	散策 マリン・リ バーアク ティビティ	午前中は川や海沿いの場所を歩いて散策し、午後はカヤックやカヌー、サップなどのリバー/マリンアクティビティの体験を行う一日（5～6時間）のツアー
⑭マリンアクティ ビティ 6h_¥15000	散策 マリン・リ バーアク ティビティ	シーカヤックやカヌー、サップ、トレッキングなどのマリンアクティビティを行う一日（5～6時間）のツアー

(3) サイクルツーリズムを進める上での課題

自転車という特別感のない要素を観光に利用するという選択肢は観光客の中で少なく、サイクルガイドツアーで収益を出すことは難しく、そのため、ガイドのみでは生計を立てることが難しく、プロのガイドの育成は難しい面があるという指摘があった。今後サイクルガイドツ

アーに関わる人を増やすには、ガイドで稼ぐことができるしくみづくりをしていく必要があると考えられる。

近隣の自治体同士の横のつながりのある取り組みを進めていく必要があるという指摘があり、サイクルツーリズムの取り組みについて行政の理解を促すような広域の協議会を設けることなどが必要であると考えられる。

4. WEB サイト調査によるガイドツアーの実態分析結果

(1) ツアー分類別の抽出数

抽出したツアーについて、種類と強度（時間・運動量で判断）、内容などから分類した分類別のツアー数の構成を図-1に示す。サイクルガイドツアーは、強度の低いツアーが高い割合を占めている。アドベンチャーツアーでは、体験系のツアーが7割、ウォーキング系のツアーが3割となっており、ウォーキング系ツアーは、ツアーの強度の高いものと低いものが均等に存在していた。

(2) ツアー時間

ツアー分類ごとのツアー時間の分布を図-2に示す。サイクルガイドツアーは、ツアー強度が高いほど長時間の傾向があるが、3時間以内のツアーは少なく、体験を伴うツアーも6時間程度が多い。アドベンチャーツアーは、アクティビティ系は3時間以上が半分近いが、サイクリングと比べ全体的にツアー時間が短い傾向である。

(3) ツアー料金

ツアー分類ごとの料金の分布を図-3に示す。サイクルガイドツアーは、時間が短い“低”のツアーで料金が低い傾向にある。一方、体験を伴うツアーは、1万円以上の割合が高い傾向が見られる。アドベンチャーツアーでは、強度の高いトレッキングでは1万円以上の割合が高い傾向が見られるが、スノーアクティビティなど特異性のあるツアーで料金が高くなる傾向が見られる。

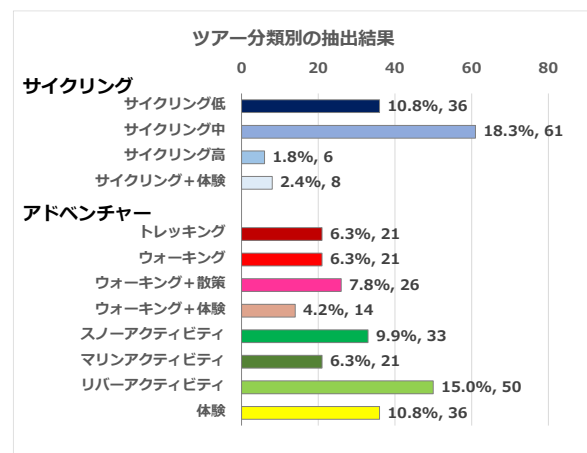


図-1 ツアー分類別の抽出結果

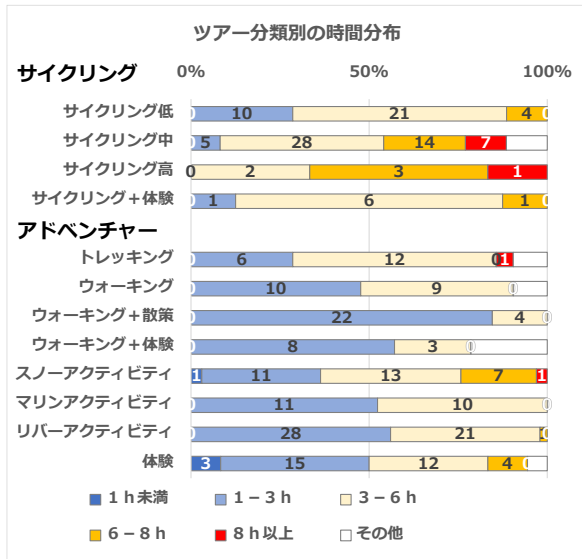


図-2 ガイドツアーのツアー時間分布

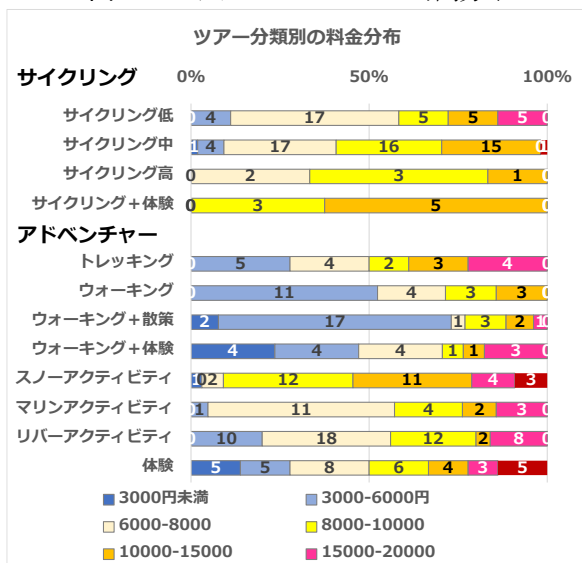


図-3 ガイドツアー料金の分布

魅力が参加意思に影響していることが窺われる。

(2) 一番参加したいガイドツアー

対象層ごとの一番参加したいと回答したツアーを多い順に並べた分布を図-5 に示す。この結果で一番参加者を集めたのは各層で万遍なく人気のある 3 時間 5000 円 グルメウォーク、同じく 3 時間 5000 円のシティポタリングといった低強度低価格のツアーであるが、次いで 6 時間 15000 円のグルメサイクル、サイクルアンドリバーツアーが 3 位 4 位となっており、食との連携や多様性のある魅力をもたらすことで関心層はむろん、一般層からも参加の可能性が生じることが示唆されている。

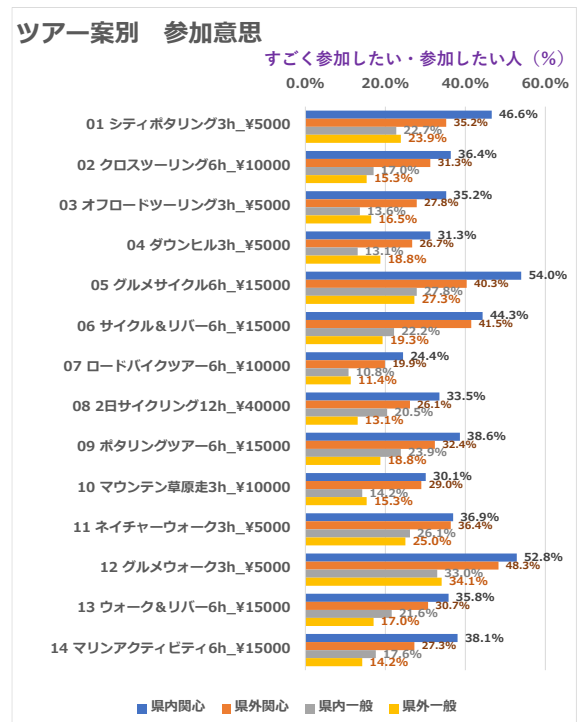


図-4 ツアー別参加意思の比較

5. WEB アンケートによるツアー種類の参加意思分析結果

(1) ガイドツアーへの参加意思

ツアー分類ごとのガイドツアーへの参加意思の分布を図-4 に示す。サイクルガイドツアー、アドベンチャーツアーともに関心層の参加意思は一般層に比べて高く、おおよそ 2 倍ほど参加意思が高くなっている。

参加度の高いツアーは 6 時間 15000 円のグルメサイクリング、3 時間 5000 円のグルメウォークと“食”との連携ツアーが高評価となっている。次いで 6 時間 15000 円のサイクル&リバーといった多様なモードを組み合わせたツアーも人気が見られる。また、6 時間 10000 円のクロスツーリング、3 時間 5000 円のオフロードツーリング、6 時間 5000 円のポタリングといったツアーも関心層の 3 割以上の参加意思が見られ、2 日間 40000 円の 2 日間のツアーでも県内関心層は 33%が参加意思を示している点が着目される。強度や金額、時間に関係なく、ツアーの

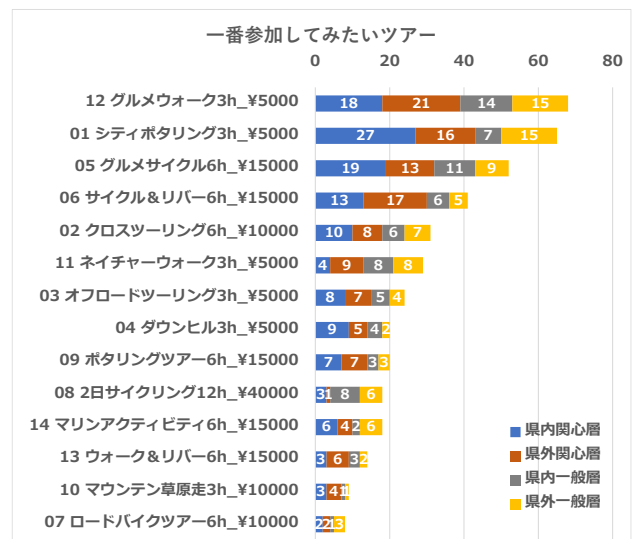


図-5 一番参加したいツアー

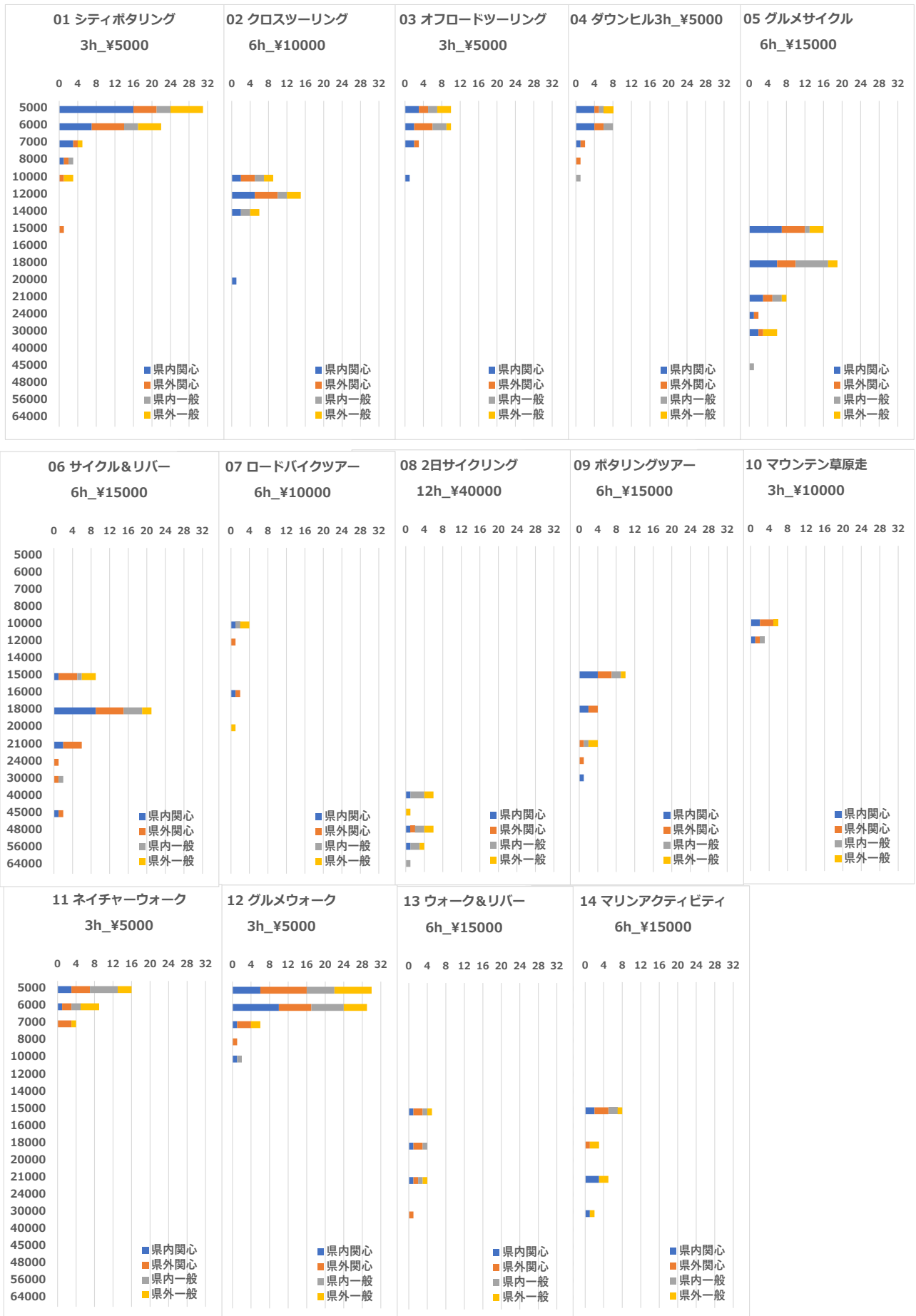


図-6 ツアー別支払意思額の分布

### (3) ガイドツアーへの支払意思額

この調査では、一番参加したいとしたツアーに対して、「ツアーが魅力的だったとして、参加料がいくらまでなら参加しますか?」という問いに対して、「元の価格から割増しされるなら参加したくない」、「元の価格の20%増(5000円なら6000円)まで」、「元の価格の40%増(5000円なら7000円)まで」、「元の価格の60%増(5000円なら8000円)まで」、「元の価格の100%増(5000円なら1万円)まで」、「もっと高くてもいい」の選択肢から選択させた。最後の選択肢は提示額の3倍の意思額があると見なして、各ツアーについて、参加意思を示した人の最大支払い意思額を算出した。その分布をツアーごとに示したのが図-6である。

人気の高い短時間低価格3時間5000円シティポタリング、グルメウォークでは、提示額までとした回答が他の解答より多くなっているが、3,4位となっていた6時間15000円のグルメサイクル、サイクルアンドリバーツアーでは、提示額よりも高い支払意思額を示す回答が、提示額までとする回答を上回っており、より高額な支払い意思を示す回答もみられる。こうした魅力付けの可能性を有するツアーについては、より高額な料金設定でも顧客を集めることができる可能性があると考えられる。

## 6. おわりに

ガイドツアー運営者・関係者へのヒアリング調査からは、ガイドツアーの実施には地元自治体を含む他組織との連携が必要であることが指摘され、また、自転車利用の観光が参加者の選択肢になく、サイクルガイドツアーで収益を出すことが難しいという指摘があった。サイクルガイドツアーの取り組みを進めるためには、行政の取り組みへの理解が必要であり、また、ガイドが稼ぐことのできる体制づくりが必要であることが考えられる。

WEBサイト調査からは、サイクルガイドツアーにおいてはツアー強度の低いものが高い割合を占めており、ツ

アー時間は3時間以上の割合が高く、ツアー強度の低いものの方が料金が低い傾向にあることが明らかとなった。アドベンチャーツアーにおいては、体験系が半分以上の割合を占めており、ツアー時間はサイクルガイドツアーに比べて短い傾向にあり、スノーアクティビティなど特異性のあるアクティビティで料金が低い傾向にあることが明らかとなった。

WEBアンケート調査からは、サイクルガイドツアー、アドベンチャーツアーともに関心層の参加意思は一般層に比べて高くなっており、ツアーへの参加意思は強度や金額、時間に関係なく、ツアーの魅力が影響していることが考えられる。また、参加希望者の多いツアーは支払い意思額が高くないが、参加希望が少なくても、グルメやリバーアクティビティとの組み合わせなど、一部の特色のあるツアーでは支払い意思額が高くなっている。魅力のあるツアーにおいては、より高額な料金を設定することが可能であることが考えられる。

以上の結果から、サイクルガイドツアーを推進していくためには、地域の様々な組織との連携が不可欠であることが考えられ、また、ガイドが稼ぐことのできる体制づくりが必要であることから、参加者の対象層を明確にし、他にはない特徴を有するなど魅力のある内容のツアーとすることで、高価な料金を設定することを目指す必要があると考える。

**謝辞:** 謝辞: 本研究は科学研究費補助金基盤研究B(20H02278)の一環として実施した。ヒアリングに協力いただいた関係各位に謝意を表す。

### 参考文献

- 1) 観光庁: アドベンチャーツーリズムの本質的課題解決への事例集, 2021 <https://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/kanko-chi/content/001465250.pdf>
- 2) 国土交通省: 自転車活用推進計画, 2021年5月
- 3) 国土交通省: 地方版自転車活用推進計画策定の手引き(案), 2018年8月

(March 10, 2023)

## A Study on the Actual Situation of Guided Cycle Tours and Users' Participation Intentions

Hiroki MATSUSHITA, Hideo YAMANAKA, and Ryoya MORITA

The National Plan for the Promotion of Cycling, which is the strategic plan for the promotion of bicycle use in Japan, will be formulated in 2019, and one of the four objectives of the plan is to promote the tourism industry through cycle tourism. In aiming to revitalise regions, attention is increasingly focused on bicycle tourism and the creation of tourist regions using bicycles: cycle tourism, as one of the directions for enriching the content of stays in the tourism industry. This study aims to clarify the actual conditions and issues of various cycle guided tours, as well as the participation intentions of the users. In addition to cycle guided tours, we focused on guided tours of walking and other activities, and interviewed the operators and people involved in guided tours being conducted in various parts of the country. The willingness to participate and the payment were analysed using a web-based survey.